

千葉県北部方面バスツアー写真集

(佐原街歩き、伊能忠敬記念館、住井すゑ文学館、福田村事件慰靈碑ほか)

実施日 2024年9月26日(木)～27日(金)

宿泊 犬吠埼 ホテルニューオーク

参加者 20名

日程 26日 横浜駅⇒水郷佐原街歩き(伊能忠敬記念館など)⇒香取神社⇒猿田神社⇒ホテル

27日 ホテル⇒ヤマサ醤油工場見学⇒地球の丸く見える展望館⇒住井すゑ文学館⇒福田村事件慰靈碑
横浜駅

1日目佐原街歩き

伊能忠敬像(伊能忠敬は測量で約35,000キロも歩いたそうです、我々は500mでふうふうです)



諸子はいかに！

忠敬家訓書

- ・偽りをせず正直たるべし
- ・身の下でも教訓異見あらば用いるべし
- ・言語進退を寛容に諸事へりくだって人と争うべからず



小野川舟遊び



農業用水水道橋(時々、橋の下から放水する演出がある)



佐原街歩き 古い町並みが続いている



香取神宮社殿



猿田神社 階段工事中で不可



猿田神社階段下の総武線
(なんか楽しそうですね)



何はともあれさあ飲もう！ 宴会の始まりだ！



席を移して英気養う?



二次会は楽しくべらべら 何も覚えていません こりゃこりゃ

三長老は何を語る?

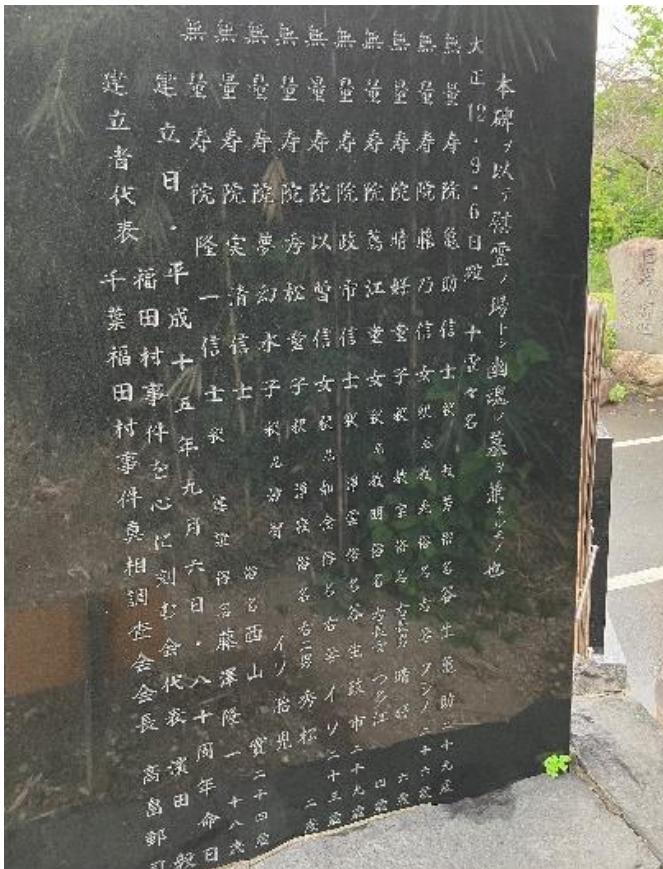


2日目の朝 出発前の爽やかな笑顔です、タベの酒が効いています



こだま句会の麗人ふたり

福田村事件慰靈碑(野田市円福寺大利根靈園)



犠牲者の銘 胎児、二歳、四歳、六歳の年齢が痛々しい



小川芋銭の雲魚亭の前でこだま句会の俳人たち

小川芋銭は日本画家で河童の絵を多く書いた。また。俳句をよく詠み、高濱虚子のホトトギスに投句して巻頭句として掲載されることもあった。



二〇二四年九月六日 訪問直前に建立された



福田村事件は、1923年(大正12年)9月6日、関東大震災後の混乱および流言蜚語が生み出した社会不安の中で、香川県からの薬の行商団(配置薬販売業者)15名が千葉県東葛飾郡福田村(現在の野田市)三ツ堀で地元の福田村および田中村(現柏市)それぞれの自警団などに暴行され胎児含め10名が殺害された事件である。自警団を組織して警戒していた福田村を、男女15人の集団が通過しようとした。興奮状態の自警団200人ぐらいが囲んで「言葉がおかしい」「朝鮮人ではないか」などと次々と言葉を浴びせていた。福田村村長らが「日本人ではないか」と言っても群衆は聞かず、巡査が本署に問い合わせを行った。この直後に惨劇が起り、棒やとび口を頭へぶち込んだ」「銃声が2発聞こえた」などの生存者の証言がある。巡査が本署の部長と共に戻って事態を止めた時には、すでに9名の命が絶たれており、その遺体は利根川に流されてしまい遺骨も残っていない。かけつけた警察部長が、説得したことで、かろうじて6人の行商団員が生き残った。検挙されたのは、自警団員8名、判決は、大審院で懲役3年から10年の実刑判決が出された。しかし、受刑者全員が、確定判決から2年5か月後、昭和天皇即位による恩赦で釈放された。